

令和8年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①基礎学力の定着、思考力・判断力・表現力及び課題発見解決力の育成を目指した授業改善に取り組む。 ②生徒が主体となって課題を解決し、自律自走する学校行事運営や生徒会活動を目指す。	①電子黒板や生徒の1人1台端末などICT機器の活用をととして授業力改善を図るとともに、生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を追求し、基礎学力の定着及び、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ②体育祭の開催時期や文化祭のキャッシュレス決済導入など、環境や社会の変化への対応について実行委員とともに検討する。	①思考力・判断力・表現力の育成を達成するため、相互の授業見学に加え、教科を超えて優れた授業実践を共有し、組織としての授業改善を図る。また実力アップ講習では基礎的な講座、発展的な講座を開き、生徒の「個別最適な学び」を追求する。 ②体育祭については、実行委員を中心に開催時期を変更した場合の組織の置き方運営の在り方について具体的に構想する。文化祭については、生徒会を中心にキャッシュレス決済導入に対応した会計マニュアルの改訂を行う。	①生徒による授業評価の各設問の回答の平均値が4段階で3.3を上回った割合が80％以上になったか。また実力アップ講習の参加者が前年と比較して増加したか。 ②体育祭開催時期変更に対応したプランを立てることができたか。キャッシュレス決済導入に対応した会計マニュアルを策定できたか。いずれも生徒主体に行うことができたか。					
2	生徒指導・支援	①学校行事や部活動の運営を通し、他者と協働して物事に取り組む態度の涵養を図る。 ②教育相談体制の一層の充実を図り、生徒一人ひとりの心身の成長を支援する。	①文化部を中心に、地域との協働の機会を通して他者と関わる力をさらに育む。運動部を中心に、活動時間や部室の使用などのマナーについても自ら律する力を育てる。 ②組織的な相談体制を整え、家庭、外部機関などとも連携を取りながら生徒一人ひとりが必要とする支援に当たる。	①地域と協働した活動について、適時発信し、活動の成果を共有する。部長会などを通して、部活動に関する規定の確認やマナーに関連した啓発を定期的に行う。 ②SC、SSW、教育相談コーディネーター等とのより良い連携、SC、SSWが対応可能な事案の充実と活用を図る。	①左記の具体的な方策を実施したうえで、学校評価アンケートの部活動に係る項目で肯定評価85％以上を達成できたか。 ②学校評価アンケートの教育相談等に関する項目が、肯定評価80％以上を達成できたか。また、SC、SSWと効果的に連携することができたか。					
3	進路指導・支援	①高い進路希望実現に向け、生徒がグローバルな視点を持って将来を設計できるよう、また、自らのキャリア発達を意識できるよう、3年間を見通した進路指導の充実を図る。	①生徒の高い進路希望の実現を目指すため、進路指導の充実を図る。	①3年間を見通した「進路指導プログラム」に確実に取り組む。また、大学入試の変化について情報を収集し、生徒、保護者、教職員への周知を図る。	①生徒及び保護者の面談、出願指導検討会及び進路説明会が有効であったか。大学入学共通テスト得点状況は良好であったか。難関国立大学合格者数24名以上、国公立大学合格率45％以上を達成できたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		②「科学と文化Ⅰ・Ⅱ」における探究活動と、ディベート活動を軸としたグローバル教育を、カリキュラムマネジメントの中核に据え、次代を担う人材に必要な資質・能力の育成を目指す。	②2年間一貫した体系的な探究プログラムを組織的に運営することで、探究の深化を図る。また、校内外で実施される各種グローバル関連研修等の活性化を図る。	②授業毎に作成している“教員向け指示書”のブラッシュアップを図り、教員間の連携を深める。また、各種グローバル関連研修について、生徒に対する周知の方法に工夫を施す。	②探究活動や課題研究の各種外部大会等に参加する生徒数が10名を超えているか。また、任意参加の各種グローバル関連研修への参加者が70名を超えているか。(※R7は47名。)					
4	地域等との協働	①生徒が活動する様子が伝わる広報活動を目指し、本校の魅力や特色を積極的に発信する広報活動を展開する。 ②保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との協働連携を促進し、本校教育力の向上を図る。	①本校の教育活動の魅力と特色ついて、中学生や保護者、地域の方々にわかりやすく情報発信する。 ②引き続き、保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との協働連携を促進し、教育活動の充実を図る。	①年2回開催される学校説明会について、“在校生の生の声”をより多く届られるよう、新たな取り組みを考案・実施する。また、学校HP等をととして各種情報の迅速に発信に努める。 ②授業や学校行事、キャリアアップ講座等において、行政機関、大学研究機関、地域、民間等と連携した教育活動の充実を図る。	①学校説明会やオープンキャンパスにおける事後アンケートで、“満足度”の肯定的な評価が80%を超えているか。 ②授業や学校行事における外部機関や講師の活用状況や、学校評価アンケートの肯定評価が80%以上を達成できたか。					
5	学校管理 学校運営	①教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む雰囲気を醸成し、魅力と活気ある学校づくりに取り組む。 ②各種会議を計画的に実施し、効率的な学校運営に取り組むとともに、安全安心な教育環境を整備する。	①教育環境の変化に迅速に取り組むとともに、教員間の信頼関係の構築および研修等を通じて活気ある学校づくりに取り組む。 ②不祥事防止に取り組むとともに、電子黒板や加湿器の設置など教室環境整備にも取り組む。	①職員相互の信頼関係の構築にも資する人権研修会や不祥事防止研修会を実施するとともに管理職および職員間の報告・連絡・相談を励行する。 ②ICTの利活用を推進し、校務の効率化にも引き続き取り組むとともに、消防署と連携した防災訓練にも積極的に取り組む。	①職員人権研修会および不祥事防止研修会等の実施回数と取組状況等の振り返りはできたか。職員間の連携体制は取れているか。 ②ICTの利活用により校務の効率化を図ることができたか。また、防災訓練の実施回数と取組状況による検証は取れたか。					